

## 子ども若者向け意見聴取 開催結果

### 1 開催の概要

#### (1) 全体概要

日時	場所	参加者数
令和8年2月28日(土) 14:00-16:00	目黒区総合庁舎 (A会議室)	5名 (事務局除く)

#### (2) プログラム概要

時間	内容
14:00	めぐろプレ子ども・若者会議開会、会議テーマと流れの説明
14:05	模擬会議「目黒区の将来の公共施設を考える」開始
14:10	意見交換の目的 ・意見交換の目的・背景の説明
14:20	グループワークのテーマ ・テーマ1、テーマ2の説明 ・グループワークで想定する「これから」と「公共施設」の範囲の説明
14:25	グループワーク ・テーマ1の進め方、使用するカードの説明【5分】 ・グループワーク(テーマ1)【20分】 ・テーマ2の進め方、使用するカードの説明【5分】 ・グループワーク(テーマ2)【25分】
15:20	休憩
15:30	発表 ・グループワークを通じて考えたこと、感じたことなどを全体で共有
15:40	模擬会議まとめ
15:45	めぐろプレ子ども・若者会議まとめ
16:00	閉会

## 2 開催結果

### (1) 全体概要

子ども若者世代の意見を聴取するため、「第4回めぐろプレ子ども・若者会議」において、令和7年10月に行った「目黒区将来の公共施設を考える意見交換会」に準じたプログラムを実施しました。

冒頭では、区からワークショップの目的、目黒区の公共施設の現状と課題などについて説明しました。続いて、ファシリテーターからグループワークの概要や作業の流れ等の説明を行い、参加者は、これからの公共施設にとって必要だと思う役割（テーマ1）と、これからの必要な役割を実現するための対応策（テーマ2）について意見交換を行い、その結果を模造紙にまとめました。最後に、グループワークを通じて考えたこと、感じたことなどを全体で共有しました。

### (2) 会場の様子



### (3) グループワークの結果（凡例）

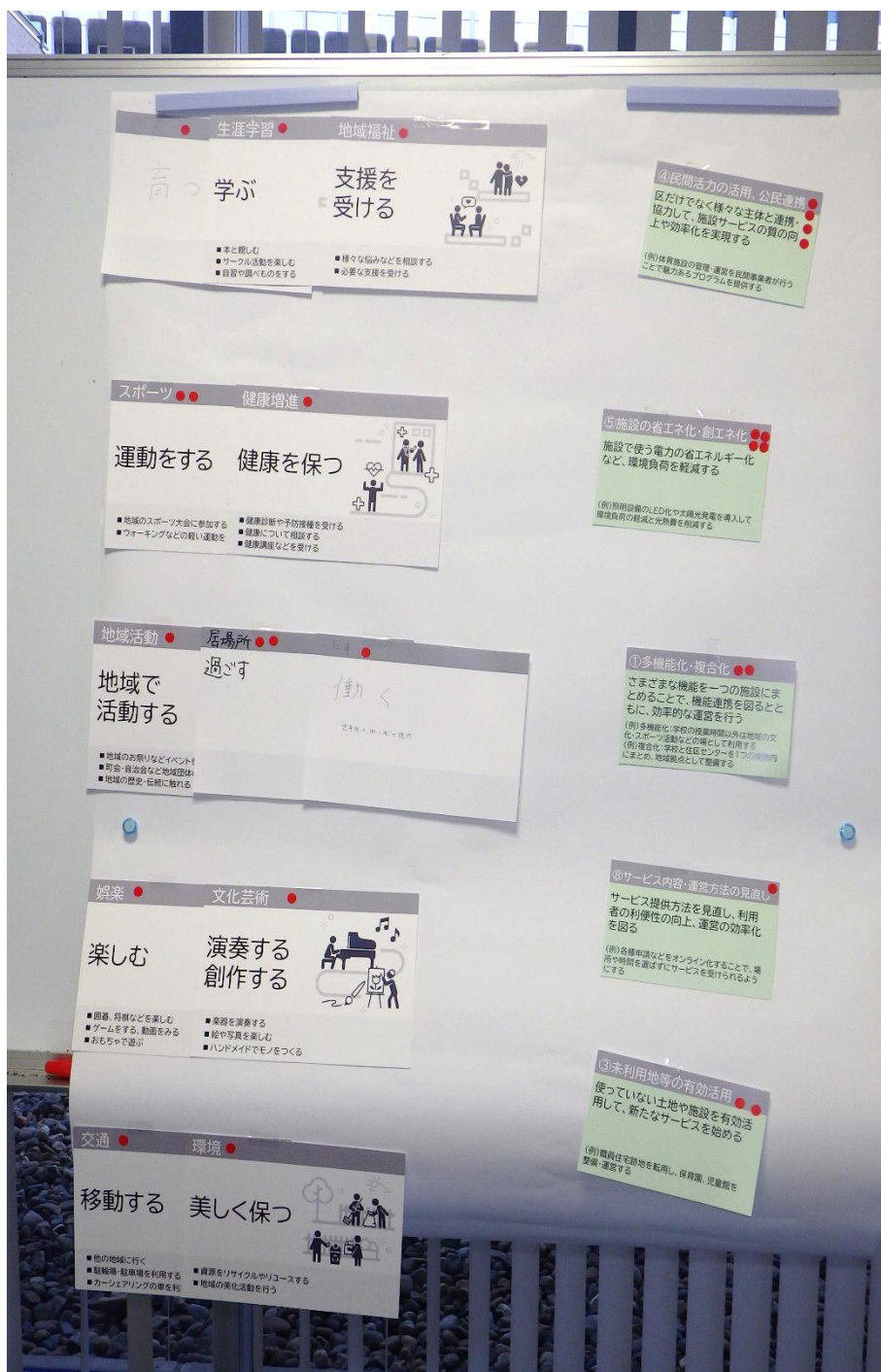
意見交換の結果を次の凡例により模造紙にまとめています。

#### (凡例)

- ・テーマ1：白の役割カード
- ・テーマ2：緑の対応策カード
- ・赤いシール：参加者が特に重要だと思った役割カード及び対応策カード

#### (4) グループワークの結果

##### (ア) 模造紙及びグループで出た意見の要約



これからの公共施設には、①子どもの育ちと学びの支援（学童拡充・中高生の居場所）、②スポーツ・健康、③居場所づくり、④動的な文化芸術拠点、⑤美しい街並みなどの重要性が話し合われました。相乗効果を意識し、各役割カードを、これら5つのグループに整理しました。

対応策は、公民連携による柔軟な運営、省・創エネによる環境配慮とコスト削減の両立、多機能化と安全配慮（学童と児童館の一体運用など）、利用者視点でのサービス見直し、未利用地や廃校の防災拠点等への活用などの重要性が話し合われました。

## (イ) グループで出た主な意見

### テーマ1 これからの公共施設にとって必要だと思う役割

- **教育**：放課後学童の需要が高い。民営学童は1～2年生中心で3年生の受け皿が児童館内学童や校内学童に流れている。子どもの体格が大きくなる一方でスペースは変わらず、安全で楽しく過ごせるのか懸念。各住区に児童館を置けば良い、学童を増やせば良いというだけではなく、子どもがどう楽しめるかを考えた施設づくりが必要。
- **スポーツ・健康**：高齢化を踏まえ、スポーツ推進で『健康に過ごす』を実現。運動機会の提供が重要。
- **居場所づくり**：担い手不足で活動の継続が難しい住区がある中で、単純に小学校の中に住区センター機能を設置することが効果的なのか疑問。町会備品（綿菓子機、ポップコーン機など）の保管場所が不足している。地域拠点に収納機能があると良い。多世代がつながる交流が重要であり、特定年代に偏らない場が、住み続けたいと思えるポイントではないか。顔見知りが増えると安心して過ごせる。交流の場づくりが必要。65歳以上の定年後の働く場の提供も必要。地域の場や教育の場など、場に応じた採用により認知症予防・生活の質向上に寄与。インシャルコストは低いランニングコストは課題。
- **楽しむ・演奏・創作**：心の健康にも寄与する。ピアノ設置のような静的展示にとどまらず、創作・発表により参加者同士が発表し合える場づくりが必要。友好都市から区に来訪する際に宿泊などで受け入れ可能な公共施設があると良い。
- **環境・交通**：清潔で美しい街並み（ポイ捨て対策）は過ごしたくなる街に不可欠。電柱地中化を進めてほしい。細い道が多い、救急車が入れないなどの不安があり、いざという時に対応できるインフラ整備が必要。

### テーマ2 これからの必要な役割を実現するための対応策

- **民間活力の活用・公民連携**：民営児童館はゲームや学習支援など柔軟なプログラムが可能。一方で地域連携（ラジオ体操等）への関与は委託先により差が生じる。民間と地域・住区・区が協力できる体制が重要。体育館など人気の施設は予約を取りにくく、費用も高い。公民連携により、比較的低廉な価格で活動機会をより確保できるような仕組みとできれば、活動の幅が広がる。
- **省エネ化・創エネ化**：LED化や太陽光発電は天候等の影響はあるが、長期的にコスト削減と環境負荷低減に資する。長い目で見て安くなる観点で推進すべき。
- **多機能化・複合化**：コミュニティスクールの取組が進められている状況を踏まえても、学校内に図書館・体育館・プール・民間など様々な機能を多機能化・複合化することで相乗効果を得られる。一方で、施設が広がることで動線が長いなどの懸念が生じるため、安全面への配慮が不可欠。学童と児童館等を一体で、安全に行き来できる配置・運用が望ましい。
- **サービス内容・運営方法の見直し**：利用者目線で運営方法やサービス内容を見直すことが重要
- **未利用地等の有効活用**：学校統合で避難所がなくなる懸念。防災拠点等として機能を残しつつ有効活用を。高齢化で空き地・空き家が増える可能性。循環の観点で新たな施設等に入れ替

え、ニーズ変化に対応。

(5) 発表

グループワークを通じて考えたこと、感じたことなどを全体で共有した結果、以下の意見がありました。

グループワークを通じて考えたこと、感じたこと

- 情報発信/周知：施設や取組を知らない人が多い。知っていれば使うので、若者にも届く PR（例：SNS 等）を強化すべき。図書館等の良さも広めたい。
- データと現場のバランス：意見を考える際に最初はデータに引っ張られすぎたと感じたが、現場の声を聞くことの重要性を認識した。
- 未来志向：区の未来の姿を考えるきっかけになった。
- 都市の情緒/文化：都市は整然として美しいが、情緒や生命力が失われがち。自然や情緒的豊かさを取り戻す場が必要。おしゃべり可能な図書館や意見を貼れるボードの設置など、静粛一辺倒でない設計が交流促進に有効。

### 3 全年齢対象に実施した意見交換会との比較

#### (1) 概要

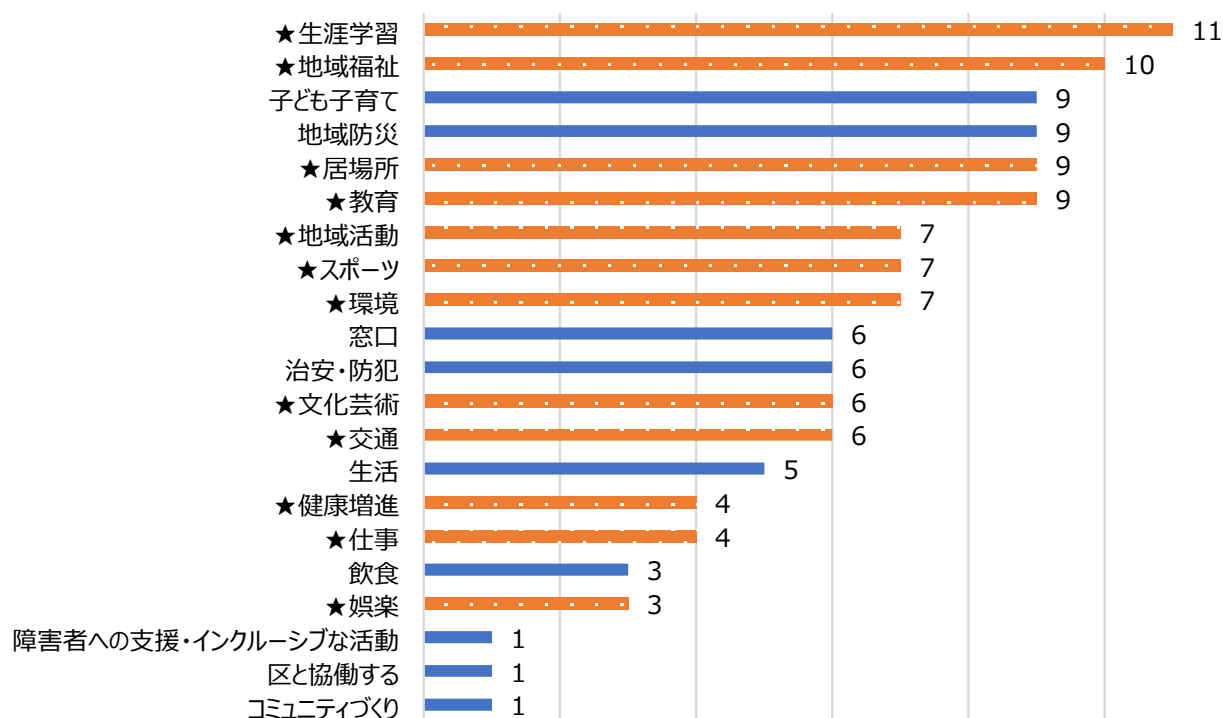
子ども若者向けに実施した模擬会議「目黒区の将来の公共施設を考える」と、令和7年10月に実施した全年齢対象の「目黒区将来の公共施設を考える意見交換会」のグループワーク結果を比較しました。

#### (2) 比較

##### ア テーマ1：これからの公共施設にとって必要だと思う役割

子ども若者向け及び全年齢対象のグループワークにおいて、各グループで選ばれた役割カードの数を集計した結果は、次のグラフのとおりです（全11グループ）。

このうち、星印をつけているものが、子ども若者向けグループワークで選ばれた役割カードです。



#### テーマ1 これからの公共施設にとって必要だと思う役割の比較

- 子ども若者世代では、役割カードを5つのグループに整理されました。結果として、主として子ども世代から高齢者世代まで安心して健康に暮らせるという観点が重視され、5グループに関連する役割カードが合計で12枚選ばれました。
- 子ども若者世代向けでは、実際の利用者の目線からの具体的な意見が多く見られました。
- 学童等の利用者の観点で、子どもの放課後学童の定員・安全・質の課題や、中高生の居場所不足が具体的に指摘されました。単に「学童を増やす」「各住区に児童館を設ける」といった量的拡充にとどまらず、子どもがどう楽しめるかに踏み込んだ設計が必要との意見がありました。また、多

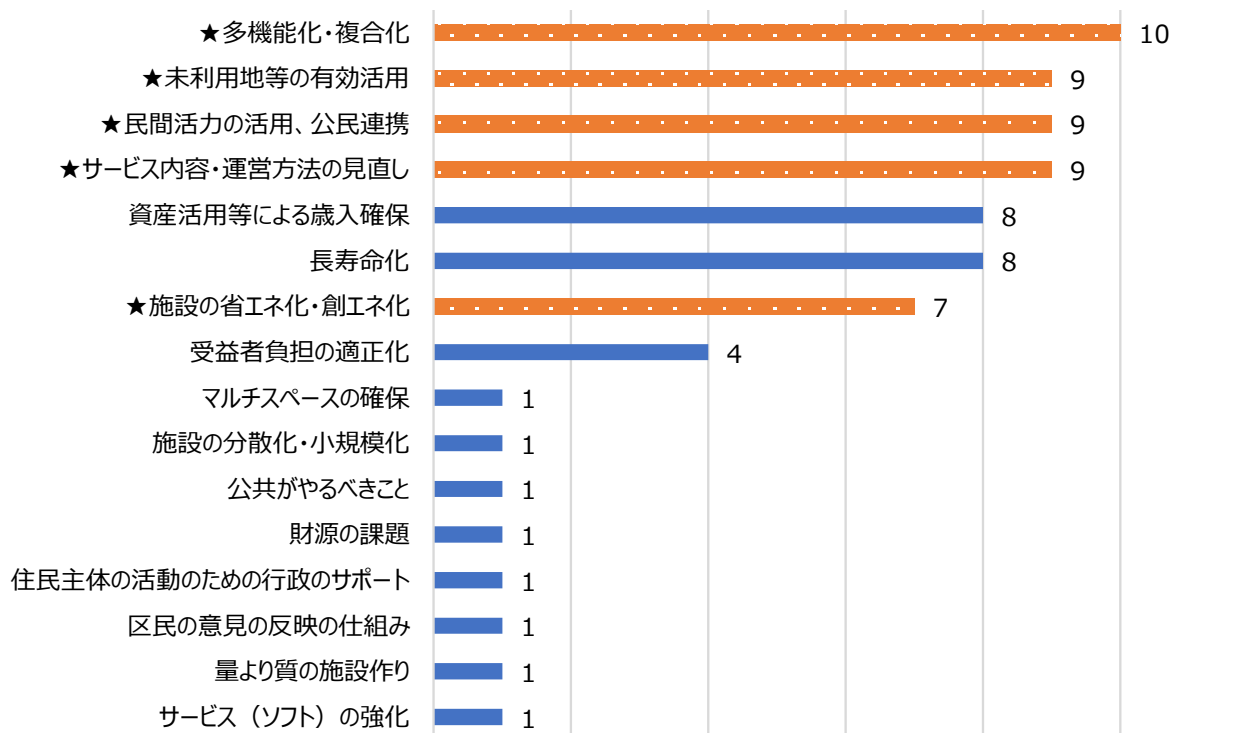
機能化・複合化に伴う安全面の懸念（動線が長い、見知らぬ人が増えることへの心理的負担など）も指摘され、学童と児童館を一体化する際には「安全に行き来できる配置・運用」を重視すべきとの意見が示されました。

- 娯楽や文化芸術については、静的な展示にとどまらず、創作・発表の場や、心の健康や交流促進につながる場など、住民参加型の拠点づくりを求める意見がありました。同様に、健康増進や仕事では、特に高齢者の方に、健康に過ごすことや定年後の働く場の提供を行うことにより、あらゆる世代が安心して過ごすことの重要性について意見がありました。

## イ テーマ2：これからの必要な役割を実現するための対応策

子ども若者向け及び全年齢対象のグループワークにおいて、各グループで選ばれた対応策カードの数を集計した結果は、次のグラフのとおりです（全 11 グループ）。

このうち、星印をつけているものが、子ども若者向けグループワークで選ばれた対応策カードです。



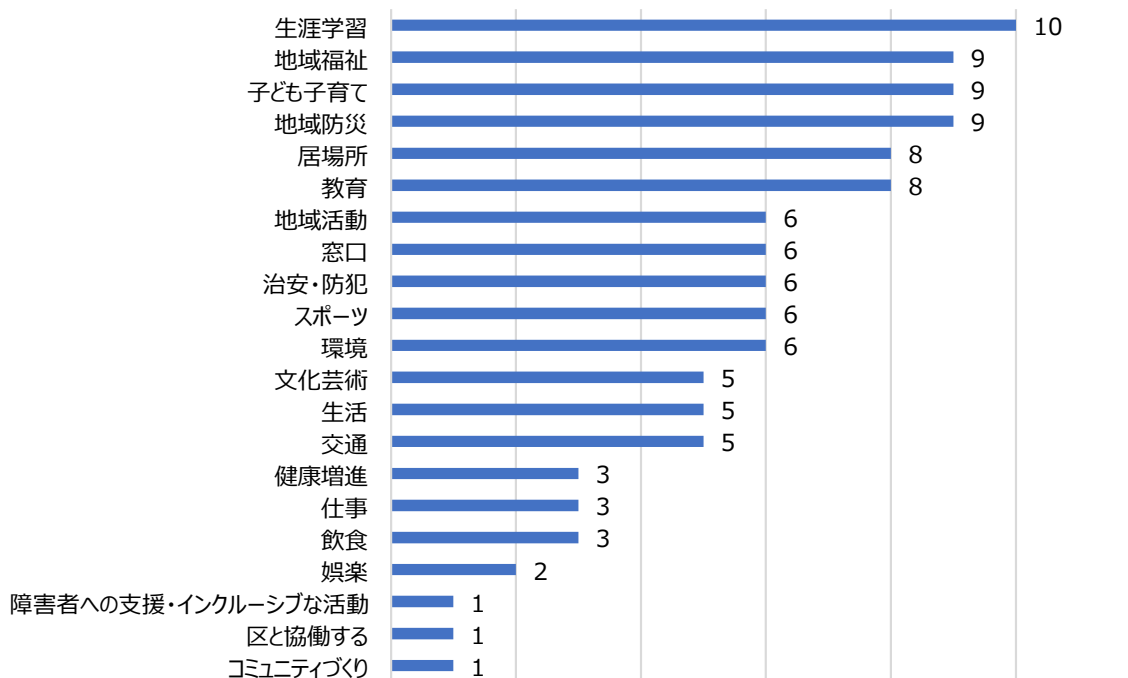
### テーマ2 これからの必要な役割を実現するための対応策の比較

- テーマ1と同様に、子ども・若者向けの意見聴取では、利用者目線による具体的な提案が多く寄せられました。テーマ1のグループ分けの過程では、各施設の多機能化・複合化を前提とする意見が多かったことから、テーマ2では施設間の相乗効果を重視された点が特徴的でした。
- 具体的には、多機能化に伴う安全配慮の徹底、学童と児童館の一体的な運用設計、体育館を安価に利用できるようにする公民連携、学校統合後の防災拠点の確保などの意見が挙がりました。
- また、情報発信が不足していることから、若者にも届く SNS 等による PR の強化が必要との提案がありました。

## (参考) 全年齢対象に実施した意見交換会のまとめ

### ア テーマ1：これからの公共施設にとって必要だと思う役割

各グループで選ばれた役割カードの数を集計した結果は、次のグラフのとおりです（全 10 グループ）。



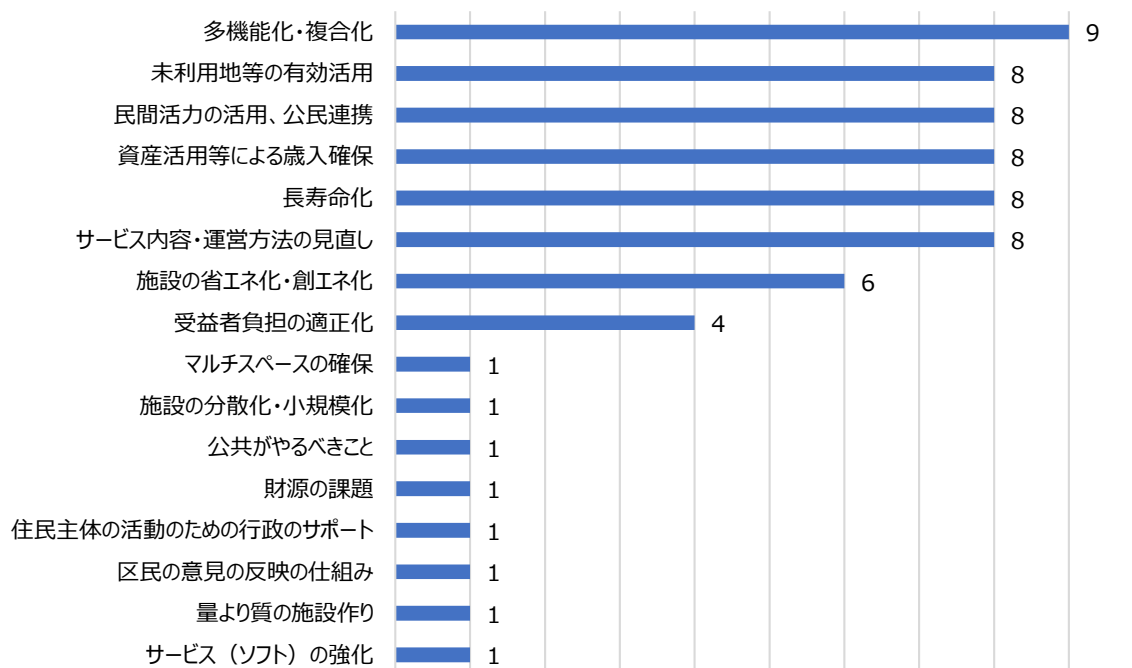
#### (全体的な傾向) これからの公共施設にとって必要だと思う役割

- 全体として、これからの公共施設は、単なる目的別の施設ではなく、教育・子ども子育て、生涯学習、スポーツ・健康、文化芸術、地域福祉、情報提供など、多様な機能をもち交流やつながりを生む地域拠点としての役割の必要性が議論されていました。また、命と財産を守る「地域防災」としての役割をもち平時は地域活動の拠点、非常時は防災拠点となることや世代や属性を問わない「居場所」としての機能、将来の担い手づくりや定住促進につながる「教育」、「子ども・子育て」の重要性などが各グループで話し合われました。
- 「生涯学習」（10 グループ）は、全グループで選ばれ、子どもから大人まで世代を問わず、学び続けることができる場が求められています。
- 「地域福祉」（9 グループ）は、「窓口」（6 グループ）及び「生活」（5 グループ）とも関連し、孤立を防ぐための見守りや、各種相談の拠点としての役割のほか、支援制度などの分かりやすい情報提供を含めた、誰もが頼ることのできる包摂的な支援を行う拠点が求められています。
- 「子ども子育て」（9 グループ）は、「居場所」（8 グループ）及び「教育」（8 グループ）とも関連し、学校や公共施設を核として、放課後の居場所、学習支援機能、子育てに関する相談機能の充実を求める意見が多くありました。
- 「地域防災」（9 グループ）は、「地域活動」（6 グループ）及び「治安・防犯」（6 グループ）とも関連し、避難場所としての機能強化のほか、地域での活動を通じた防災・減災の取組、そのための普段からの地域での顔の見える関係づくりも必要との意見が多くありました。

- 「スポーツ」(6グループ)は、「健康増進」(3グループ)とも関連し、誰もが利用できる運動施設の維持・拡充を通じて、健康寿命の延伸や世代間交流の促進を求める声もありました。

## イ テーマ2：これからの必要な役割を実現するための対応策

各グループで選ばれた対応策カードの数を集計した結果は、次のグラフのとおりです（全 10 グループ）。



### （全体的な傾向）これからの必要な役割を実現するための対応策

- 最も多く選ばれたのは「多機能化・複合化」（9グループ）で、学校と図書館の機能連携等による運営の効率化や、多世代による利用の促進などを求める声が多かった一方で、過度な集約や管理コスト増への配慮も必要とされました。
- 「未利用地等の有効活用」（8グループ）では、空き地や旧校舎のほか、未利用時間帯の貸付・転用などによる地域ニーズに応じた活用を進め、売却に偏らず継続的な収入の確保を求める声が多くありました。
- 「民間活力の活用、公民連携」（8グループ）では、指定管理等による効率化を図りつつも、行政の責任を明確にする必要性も指摘されました。
- 「資産活用等による歳入確保」（8グループ）では、貸付・広告料・寄付・ふるさと納税などによる多様な歳入確保策が求められました。
- 「長寿命化」（8グループ）では、新築より改修・維持管理を計画的に進め、財政負担を軽減しつつ、安全性と快適性の確保を図るべきとの声がありました。
- 「サービス内容・運営方法の見直し」（8グループ）では、予約など各種手続きのデジタル化、利用時間の延長、個人利用の拡充など、ニーズに合わせた柔軟なサービス内容や運用の見直しが必要との意見がありました。
- なお、各グループでは「マルチスペースの確保」以下、独自の対応策についてのアイデアが8つ提案され、これからの時代の公共施設における行政の果たすべき役割について、活発な意見が出されました。